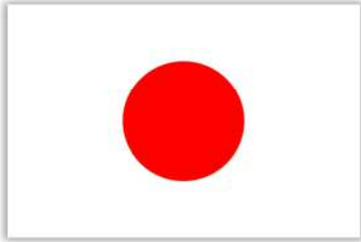


平成28年度  
苫小牧市こども国際交流事業

# 中学生フィリピン派遣団



## 報告書



平成28年7月28日(木)～8月1日(月)

フィリピン共和国 マニラ

苫小牧市



# 目 次

派遣団名簿	1
事業概要	2
日程表	3
「こども国際交流事業を終えて」 団長 苫小牧市立光洋中学校 校長 石井 告美	4
「中学生フィリピン派遣団に参加して」 リーダー 登別明日中等教育学校 岡崎 琳太郎	5
旅行記	6
体験記	11
研究報告	15
旅の思い出（写真）	17



ナショナルユースコミッションにて来苫経験のある若者たちと

# 中学生フィリピン派遣団名簿

## 引率者

	所属		氏名
団長	光洋中学校	校長	石井 告美
アドバイザー	光洋中学校	教諭	神島 宗宏
事務局員	苫小牧市市民自治推進課	主事	川島 徹

## 団員

	学 校	学年	氏名
リーダー	登別明日中等教育学校	3年	岡崎 琳太郎
副リーダー	苫小牧東中学校	1年	相原 秀紀
	和光中学校	2年	井戸 綾星
	凌雲中学校	2年	大菅 菜々子
	青翔中学校	2年	櫻井 ゆい子
	明野中学校	2年	立石 歩佳
	沼ノ端中学校	2年	山根 まどか
	登別明日中等教育学校	1年	奥田 琳花
	緑陵中学校	1年	鈴木 希歩
	青翔中学校	1年	本田 友莉佳



7月19日出発式

# 事業概要

## ●目的

市内の学生を海外に派遣し、子供たちとの交流や文化や習慣に直接触れることで、国際的な視野を持つ人材の育成や友好関係を構築する。

## ●訪問国（都市）

フィリピン共和国（マニラ）

## ●協力

独立行政法人国際協力機構（JICA）

## ●事業日程

月 日	曜日	時 間	内 容	備 考
5月16日	月	17:30 ～20:00	選考面接 (作文・面接による選考)	
6月 7日	火	18:00 ～19:30	結団式・第1回事前研修 (説明会)	
6月14日	火	18:00 ～20:00	第2回事前研修 (フィリピン講座)	フィリピン人 講師
6月21日	火	18:00 ～20:00	第3回事前研修 (発展途上国の研修・リーダー決定)	ドキュメンタ リー映画鑑賞
6月28日	火	18:00 ～20:00	第4回事前研修 (交流先の説明・交流内容の話し合い)	
7月 5日	火	18:00 ～20:00	第5回事前研修 (交流内容の決定・グループ分け)	
7月12日	火	17:00 ～20:00	第6回事前研修 (交流の練習・フィリピン講座)	フィリピン人 講師
7月19日	火	17:00 ～20:00	出発式・第7回事前研修 (市長表敬訪問・交流の練習)	
7月26日	火	17:00 ～20:00	第8回事前研修 (交流の練習・出発前最終準備)	
7月28日 ～1日			フィリピン訪問	
8月上～ 中旬			帰国報告会準備(グループごとに集まり、報告資料の作成)	
8月23日	火	18:00 ～20:00	帰国報告会準備(全員で発表の練習)	
9月10日	土	18:00 ～20:00	帰国報告会	

# 日 程 表

日次	月 日	現地時刻	場 所	内 容	移動	朝食	昼食	夕食
1	7月28日（木）	11:30頃	市役所	市役所集合	専用バス  NH2154  NH819  専用バス	—	各自	機内食
		12:00	市役所	一階ロビーにて出発セレモニー後、新千歳空港へ				
		14:05	新千歳空港	新千歳空港発 14:05 成田空港着 15:45				
		17:20	成田空港	成田空港発 17:20 マニラ空港着 20:55 入国手続き後、ホテルへ				
		22:45	ホテル	ホテル着（ベルジャヤ・マカティ・ホテル）				
2	7月29日（金）	8:30	ホテル	ホテル出発	専用バス	ホテル	レストラン	レストラン
		9:00-11:30	マニラ市内	Araullo High School(マニラ市内中学校)訪問 【歓迎セレモニー・校内見学・授業参加】				
		14:00-15:30	マニラ市内	JICAフィリピン事務所訪問・研修				
		16:00-20:00	マカティ市内	市内散策(ショッピングセンター)後、夕食				
		20:30	ホテル	ホテル着（ベルジャヤ・マカティ・ホテル）				
3	7月30日（土）	8:00	ホテル	来苫経験のある若者達と合流後、ホテル発	専用バス	ホテル	レストラン	各自（ファーストフード店）
		9:00-13:00	マニラ市内	ナショナルユースコミッション(NYC)にて若者達と交流				
		15:00-20:00	マニラ市内	若者達とグループでショッピングモール散策 (Mall of ASIA) Jolibee(ハンバーガーショップ)で夕食				
		20:30	ホテル	ホテルにて若者達と解散				
4	7月31日（日）	8:30	ホテル	ホテル発	専用バス	ホテル	レストラン	レストラン
		9:00-18:30	マニラ市内・ タガイタイ	マニラ及び近郊の観光 【ラスピニャス教会、ジブニー工場、ピープルズ・パーク・イン・ザ・スカイ、サン・アグスチン教会、イントラムロス、カーサマニラ、スモーキーマウンテン(車窓)】				
		18:30	マニラ市内	見学終了後、夕食(民族舞踊ショー)				
		20:30	ホテル	ホテル着（ベルジャヤ・マカティ・ホテル）				
5	8月1日（月）	7:00	ホテル	マニラ空港へ	専用バス  NH820  NH2155  専用バス	ホテル	機内食	各自（成田空港）
		9:30	マニラ空港	マニラ空港発 9:30 成田空港着 15:00				
		17:55	成田空港	成田空港発 17:55 新千歳空港着 19:40				
		21:45	市役所着	一階ロビーにて帰国セレモニー後、解散				

## こども国際交流事業を終えて

私たちは、苫小牧市こども国際交流事業として、市内の中学生10名と引率者3名による4回目の中学生フィリピン派遣団を結成しました。今年度は、過去3回の訪問実績を土台に交流の更なる充実を目指して、8回の事前研修を積み重ねての旅立ちとなりました。

マニラ空港到着後、ホテルへ向かうバスの中は、午後10時を過ぎているにもかかわらず異国の地に足を踏み入れた興奮が充満していました。初めて見るフィリピンの交通渋滞、カウントダウンする信号機、定員オーバーで走る自動車など、団員たちの興味は尽きません。

訪問した時期が雨季だったため、曇り空は強い日差しをさえぎり、比較的過ごしやすい5日間となりました。夕方発生するスコール、大雨をシャワー代わりに身体を洗う現地の子どもの姿は、熱帯気候で暮す人々の日常を表していました。4日目の名所観光では、台風の接近により雨の多い一日となりましたが、当初計画した全ての研修をやり遂げ、多くの思い出と満足感を心に詰め込んで帰国することができました。

団員の活躍で、強く印象に残っていることを2つ紹介したいと思います。

1つは、研修2日目のアラウロ・ハイスクールでの交流です。相手学校の生徒たちの合唱や民族衣装によるダンスなど全てが素晴らしく、団員たちはお返し自分たちの合唱が相手に伝わるか不安のようでした。そのとき歌った曲『ありがとう』は、練習以上の出来でした。代表者による見事なピアノ伴奏に合わせて、カー杯歌うことができました。予定していなかったアンコールにへ応えてもう一曲『花は咲く』を披露するなど、団員全員が心を一つにした発表となりました。

2つ目は、研修3日目の苫小牧に来た経験のある若者たちとの交流です。一日中、英語によるコミュニケーションを強いられたにもかかわらず、研修が終わって、団員たちに感想を訊くと「楽しかった」という人がほとんどでした。今回の団員は、1・2年生が中心でした。英語の学習は1学期だけという1年生も物怖じせず、フィリピン人のパートナーと意思疎通を図っていました。小学校で行われている外国語活動の成果でもあるのでしょうか。団員たちのコミュニケーションを図ろうとする意欲は立派でした。

過日行われた帰国報告会での団員10名の姿は、本事業をとおして、心と考え方が大きく成長したことを実感させてくれる発表となりました。現地に行って、見たり、聞いたり、食べたりしたこと。同世代の若者と交流したり、想いを伝え合ったりしたことは、貴重な体験となったことと思います。この体験が団員たちの将来にわたって心に残り、国際感覚豊かな人間に育ててくれることを心より願っています。

この事業の実施にあたり、苫小牧市総合政策部政策推進室市民自治推進課を始め関係者の皆様には、多大なご尽力・ご協力をいただいたことに厚くお礼申し上げます。

平成28年9月

団長  
苫小牧市立光洋中学校  
校長 石井 告美

## 中学生フィリピン派遣団に参加して

リーダー 岡崎 琳太朗

僕は、正直不安でした。海外には一度も行ったことが無く、リーダーというものもした事がありません。全て初めての僕がみんなをまとめられるのか本当に不安でした。でも、出発式のみんなの笑顔を見て、その不安は吹き飛びました。飛行機の中では映画を観るなどして過ごし、日本を離れたという実感はありませんでした。しかし、飛行機を降りて息を吸った瞬間、町全体がココナッツの様な甘い独特の匂いに包まれていて「ここはフィリピンなんだ」と実感することができました。

翌日のアラウロ高校では、聞いていたとおり現地学生の歌がとても上手で圧倒されてしまいました。その後に僕達が歌うというのは少し辛いものがありましたが、一人ひとりが気持ちを込めて歌ったので、今までで一番声が出ていてすごく良い歌を披露することができ、ホッとしました。その後、ダンスや楽器の演奏を教えてもらい、貴重な体験がすることができました。その後に訪れた JICA では、日本とフィリピンの関係について学びました。日本がフィリピンに対して様々な支援を行っている事を知りました。

3日目、フィリピンの若者達との交流では、僕達のために考えてくれたクイズやゲームをして交流を行いました。僕達が準備していった日本の遊びも楽しんでくれて、とても嬉しかったです。僕が一番楽しみにしていたショッピングモールでの買い物は、パートナーとして付いてくれたジェックと一緒に行動しました。ジェックは、自分の荷物があるにも関わらず、僕の買った荷物を全部持ってくれました。フィリピン人の優しさとおもてなしの心に感動したのを覚えています。いつかまた、ジェックに会って話がしたいと思いました。

夕食は派遣団のみんなでハンバーガーショップに行きました。僕は「ハロハロ」というデザートを注文したのですが、注文が届いていなかったため店員に話しかけたところ、うまく伝わらず大変でした。結局楽しみにしていたハロハロは食べられず、残念な思いをしました。

4日目、マニラ近郊の観光では、スモーキーマウンテンの風景に衝撃を受けました。事前に DVD で観てはいましたが、子ども達がごみを漁る姿を目の当たりにして心が苦しくなりました。僕達の生活がどれだけ恵まれているのか、と改めて考えるきっかけになったと思います。

滞在中、一番心に残っているのはバスの車窓から赤ちゃんを抱いた女の子を見たことです。恐らく、僕と同じくらいの年齢で、路上生活をしている様子でした。その子は、お金をねだって僕達に手を差し出してきました。まだ子どもなのに大変な生活を強いられ、とても可哀想だと思いました。働く場所が無いためこのような状況になっており、JICA が専用のカフェを作っていると聞きました。もっと、そのような支援活動が広がれば解決に繋がるのではと思いました。

この研修を通して色々な人と出会い、たくさんの経験をする事ができました。リーダーとして一番嬉しかった事は、誰もが元気に楽しく研修を終えられた事です。

すごく楽しい研修でした。

最後に、石井校長先生、神島先生には事前研修から色々ご指導いただき、ありがとうございました。また、川島さんをはじめ、市役所の方々には、このような機会を与えてくださり感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

## 第1日目 7月28日(木)

立石 歩佳

一日目、私たち派遣団はすぐれない天候の中、市役所に集まった。ロビーで出発式を行い、私たち団員は不安と楽しみな気持ちを胸に市役所を出発した。出発してすぐ、私は軽めの昼食をとり、着くまでおしゃべりをしていた。空港に着き、手続きや検査を終え、中で待った。飛行機は少し遅れていたが特にトラブルもなく、約一時間半後、無事に成田空港に到着。飛行機を降りるととても蒸し暑く、北海道に住んでいる私からすればこの本州の暑さはなれないものであった。私は、「フィリピンはもっと暑いのか、大丈夫かな。」と心配になってきた。



そんな心配も束の間、国際線に乗り込む時間となった。私にとっては初めての国際線、初めての海外、すごく気持ちが高ぶっていた。いざ乗り込むと周りには外国人ばかり。周りで飛び交う英語。少し緊張してしまった。離陸後、機内食が運ばれてきた。隣の方が私の分も注文してくれ、優しさに感動した。その方とは、たまに会話をし、フィリピンについても教えてくれた。私の初英語は無事通じてよかった。



成田空港を出発してから約五時間後、無事にマニラに到着。空港内で手続きをするために待っていた時、顔に黒い布をまとった女性が歩いており、やはり日本との宗教の違いを感じた。外に出ると、日本とは違って蒸していて、ジメジメとした暑さを感じた。気温は25度とあまり高くはないが、湿度で暑く感じ顔に汗をかくほどだった。私達と一緒に行動してくれる現地ガイドのコニーさんと共にバスでホテルに向かった。窓から見える景色はネオンの看板などできれいだった。



ホテルもとてもきれいで部屋も広かった。けど、私の部屋だけベッドがキングと小さいもので少し笑ってしまった。シャワーもガラス張りで、なんだかセレブになった気分だった。着いたのが夜遅かったので、私達は明日への楽しみな気持ちを抑えつつ眠りについたのをよく覚えている。



## 第2日目 7月29日（金）

相原 秀紀

フィリピンとの時差がマイナス一時間だったこともあり、時差ボケも気にならなかった。ホテルのモーニングコールでは、何を言っているかは分からなかったけれど、思いついた単語を並べて返した。なんとかなるものだと、不思議と自信がついた。おかげで快調なフィリピンでの朝となった。文化、歴史、生活の違いからか、ホテルの雰囲気や絵画などから、独特の空気に見送られながら出かけた。

そして、今日の訪問先であるアラウロ高校へ……。生徒数約4,800人、授業は、午前と午後の二部制で学んでいるようだ。僕の学年は、100人にも満たない人数で過ごしているため、スケールの大きさに圧倒された。人数だけではない。授業に取り組む姿勢も見習わなければと思った。



大歓迎の中、中学部の音楽の授業に参加し、竹の楽器に触れたり、生徒が伝統の踊りと素晴らしい合唱を披露してくれた。合唱は、各パートの声の出し方が上手で、歌に対する思いが伝わってきた。僕達もピアノ伴奏に合わせて、いきものがかりの「ありがとう」を発表した。練習以上の歌声が出せて、よく歌えたと思った。きっと、アラウロ高校の生徒の歌声から良い刺激を受けたのだろう。交流中、生徒とは、片言や単語レベルのやりとりだったが、お互い気持ちに通じているようで楽しい時間となった。



午後は、JICA フィリピン事務所へ。「JICAって何？」恐らく大抵の人は、疑問に思うだろう。JICAの活動として、国境に関係なく、発展途上国の貧困、教育、紛争、エイズ、労働力などの問題を地球的規模の課題として支援し、多くの人々の命や生活を支えている。例えば、青年海外協力隊の活動や、地震・台風などの大規模災害へのボランティア派遣など、活動資金は日本の税金で運営されていた。



どうして海外にまで支援が必要なのかと疑問に思っていたが、活動内容を学ぶうちに、日本の暮らしを守るということは、世界の暮らしにも視野を広げていかなければならない。それは、同じ地球上にいるのだから。と思った。

僕達が日本で平和な生活を過ごすために。世界中のみんなが幸せであること。だから、世界は繋がっているのだ。

### 第3日目 7月30日（土）

本田 友莉佳

三日目、今日はこのフィリピン研修のメインイベントともいえる、来苦経験のある若者達との交流の日だ。朝、ホテルのロビーで待っていると、若者達が来てくれペアが発表された。バスに乗り込み、一人ひとり順番に自己紹介をし、その後それぞれのペアと会話をした。本場の英語の発音で、聞き取ることが難しかったが、私に分かるように優しく教えてくれた。



そして、ナショナルユースコミッションに到着。代表の方々の話の後、若者達が準備してくれた「HOKKAIDO GROUP」の動画を見せてもらい、みんなでゲームをした。パズルや遊び、フィリピンのお菓子を食べ、フィリピンの服を着て写真を撮ってもらった。その後、私達の出番が来た。今まで練習してきた成果が発揮できるよう、みんなで頑張った。私達は日本の昔の遊び等を説明し、実際に披露した。若者達もとても楽しそうにしていたので、嬉しかった。



盛り上がったところで、最後にリコーダーと歌の発表をした。みんな、とても楽しそうに聞いてくれた。終わると大きな拍手がもらえ、とても感動した。そして、みんなに折り鶴をプレ

ゼントしようと考え、急いで全員分を作り、渡すことができた。

その後バスに乗り、昼食会場へと向かった。チキンのお店での昼食だった。とてもたくさんの種類の料理が大皿に盛られ、それをみんなで分け合って食べた。みんなで食べた昼食は、とてもおいしく感じた。昼食を食べ終わると、とても大きなショッピングモール「モール・オブ・アジア」へ行った。とても広くて、どこに何があるのか全く分からなかった。しかし、ペアの方が教えてくれたので、自分の買いたいものをたくさん買うことができた。買い物が終わると、アイスクリームのお店へ行った。そのアイスは、逆さにしても落ちない不思議なアイスでとても驚いた。自由時間も終わり、若者達と最後のバスに乗り込んだ。若者達から、彼等のグループ名である「HOKKAIDO GROUP」のロゴがプリントされたオリジナル枕をプレゼントしてもらった。私達は、お礼にバスの中で「ありがとう」を歌った。そこでバスはホテルに到着。ホテルに戻ると、ペアの方からサプライズのプレゼントと、一緒に撮った写真をいただいた。嬉しさのあまり、涙が出そうになった。今日でお別れというのも寂しかったが、みんな笑顔で最後のお別れをした。私達にとって、忘れられない楽しい一日となった。この日の貴重な体験は、私の中で大切な思い出の一つとなった。そして、この体験を今後様々な場面で活かしていきたいと思った。



## 第4日目 7月31日(日)

鈴木 希歩

四日目は、マニラ及び近郊の観光だった。初めは、「ラスピニャス教会」という所へ行った。ここは、バンブー（竹）のできたオルガンが有名だ。フィリピンでは竹を多く使っていて、家や楽器なども、竹を使うことがある。実際に音が鳴っている所は見る事ができなかったが、模型を触ることができた。良い音色で、派遣団で色々な演奏をしていた。



次に、「ジプニー工場」へ行った。ジプニーとは、フィリピン人がもっとも良く使う乗り物で、日本で言う小型バスのようなものだった。ジプニーには窓が無く、工場内にある車両に乗ってみると、風が通ってとても気持ち良かった。バスに乗り込み、次に向かう場所へ出発。目的地であるタガイタイへは一時間ほどかかるため、派遣団のリラックスタイム。ガイドさんの豆知識は、とても勉強になった。雨や渋滞で到着が遅れたりしたため、車窓から街の様子を見学することが多かったが、ゆっくり走行してもらったのでたくさん写真を撮ることができた。

昼食は、肉料理が多く、味も濃い目だった。昼食の時、急に大雨が降ってきてお店から見えるはずだったタール火山も少ししか見えなかった。派遣団が興味を持ったココナッツジュースは、果肉まで食べられるのだが、味がわからないほど薄かった。昼食後、タール火山が一望できる展望台へ行ったが、霧がかかって真っ白で、何も見えなかった。

下まで戻り、またバスに乗って「スモーキー



マウンテン」へ行った。スモーキーマウンテンの近くは、大量のゴミで溢れかえっていた。そしてそれを拾い生活するのが当たり前、そんな人々の姿が多く見えた。川にはゴミが浮かび、家も川の上に建っていた。拾った布などを家の壁とし、生活している。食糧もあまりないのか、からだの痩せた子どもがたくさんいた。私達にできること、それは、日本のように豊かでおいしいものがたくさん食べられる国とは違い、貧しいが、それを当たり前として生活している人たちがいることを知ること。だから、その人たちの事も考えて生活していきたい。夕方、「サン・アグスチン教会」という所へ行きキリスト教の礼拝を体験した。たくさんの人々が集まり、祈りを捧げていた。何を言っているかわからなかったが、無心になって祈りを捧げた。夕食では民族舞踊ショーをみた。ショーの最後にバンブーダンスを実際に体験した。

その他にも、フルーツスタンドに立ち寄りフルーツを食べたり、買ったりと、盛りだくさんの一日だった。夜はみんなでホテルの部屋に集まり、ガイドさんへの手紙などを作った。明日は苫小牧へ。最後の一日を頑張りたいと思う。



## 最終日 8月1日(月)

奥田 琳花

6月に初めて出会った10人の仲間と過ごすフィリピンでの最後の日になりました。

「りんか、5分前だよ」と同じ部屋の希歩ちゃんに起こされ、驚きました。集合時間まで5分しかありませんでした。寝坊をしてしまいました。しかし、前夜に帰る準備をしていたので、なんとか集合時間に間に合ってホッとしました。ホテルでの最後の朝食もパンケーキを食べました。私が毎日食べた一品でした。



そして、このベルジャヤホテルで感激した出来事がありました。それは、二日目の研修が終わり部屋に戻ると、白いタオルとバスタオルで作った2羽の白鳥と一緒に、ティッシュペーパーで作ったハートとお手紙がベッドの上に置かれていました。それは、ルームアテンダントの方からのチップのお礼でした。とても嬉しい初めての体験でした。互いに顔は知らないけれど、心が通った、思い出に残るホテルでした。



皆がバスに乗り、空港へ向かいました。五日間お世話になった現地ガイドのコニーさんともお別れです。私はありがたい気持ちを込め

て日本のお菓子を渡しました。コニーさんは、笑顔で喜んでくれました。明るいコニーさんに元気でいてほしいと思いました。帰りの飛行機の座席は、友莉佳ちゃんと歩佳ちゃんと隣同士で機内食を一緒に食べました。特に、サラダとパンが美味しかったです。成田空港に着いて、乗り継ぎまで一時間半くらい時間があつたので、友莉佳ちゃんとまどかちゃんと「白いご飯が食べたいね」ということになり、3人でお茶漬を食べました。五日ぶりの日本のご飯は、とても美味しいと感じました。それから、千歳空港に着きバスに乗って市役所に移動しました。出迎えてくれた人の顔を見て「無事に帰ってきた」とホッとしました。

さて、フィリピンでの最後の夜に、電子辞書を使い頑張って英文でコニーさんへの手紙を書きました。しかし、自宅に戻りバッグを開けてビックリ。コニーさんへ渡したお菓子の中に入れたはずの手紙を発見！！寝坊をしたことが原因でバタバタして、感謝の気持ちを伝えられませんでした。とても残念でした。反省です。

フィリピン研修を通して、片言の言葉でも、人の温かさを感じ、異文化に触れる楽しさを知りました。また、スラム街を自分の目で見て、貧困の現実を知ることの大切さを学びました。石井校長先生、神島先生、川島さん、ガイドの坂本さん、現地でお世話になった方々と10人の仲間のおかげで、私は元気に貴重な経験をすることが出来ました。ありがとうございました。今後も、このような海外研修に参加したいと思います。



# 異文化に触れて

井戸 綾星

フィリピン訪問2日目に、現地の学生との交流を日明とした A t r a u i l o H i g h S c h o o l の訪問がありました。私たちは交流の最後に感謝の気持ちとしてそれなりに練習してきた日本の歌をプレゼントするくらいしか準備をしていなかったのですが、簡単なイベントだと思い込んでいました。私は帰国前に飲み込まれて消極的になってしまわないか、心配で仕方ありませんでした。7月29日金曜日、訪問当日、学校に到着して出迎えてくれたのは満面の笑みで「いらっしゃいませ!!」と日本語で元気に挨拶をしてくれる学生でした。初めは空気がなじみず、少しとまどっていた私たちでしたが、そんな私たちにも積極的に楽しそうに接してくれている学生の様子を見ていると、緊張が溶け、興奮も高まってきました。これが日本とは違う、「世界は広い」ということなのでしょう。人種の違いなのでしょうか？私たち日本人とは笑顔の質が違うように感じました。



学生は皆、表情が整かで、おおらかさが滲み出ていました。会場は、手作りの装飾で飾りつけてあり、歓迎ムード一杯でこれから始まる交流が、ただの形式的な行事ではないことがすぐに伝わってきました。学生たちからの歌は、声量やリズム、表情、周りとのバランス感などどれも素晴らしく、歌うことが大好きなんだなと感じました。私たちのためにきっと何度も練習をしてくれたのでしょうか。急に、私たちからの歌のプレゼントが練習不足で申し訳ない気持ちで一杯になり、恥ずかしくなりましたが、今自分たちが出来る精一杯を出しつくそうと全員で頑張りました。



女性たちによる伝統ダンスもあり、カゴを頭に乗せたまま落とさないように優雅に踊るものでした。まるでカゴがのっていないかのようにしなやかに踊っている様子を見ているとそれほど難しく感じませんでした。しかし、実際に体験させてもらおうと、非常に難しく、歩くのが精一杯でした。日本にも日本舞踊という素晴らしい伝統があります。私も幼いときに習っていましたが、手、首、腰、足の位置など美しく踊るにはたくさんの練習が必要です。きっと女性たちも一生懸命習い、伝統を受け継いでいるのだと感じました。最後には、みんなで輪になって盆踊りを踊りました。振り付けにも見よう見真似で挑戦し、恥かしながらも仲間の一員になれたように感じ幸せでした。



交流の最後は、私が一番興味を持っていた授業体験でした。フィリピンでは、どの教科も英語で行われるため日本の参観日のようなものかと思っていましたが、音楽の授業で「私たちにも分かりやすい教材を選んでくれたことがわかりました。スクリーンを利用して楽器について学んでいる光景は日本とあまり変わりなく、やはり学校とは静かに過ごすものなのだと思います。ところが、先生の問いに対しては学生たちは皆意欲的で学ぶことに対しての喜びが伝わってきました。楽器の演奏は私たちも参加させてもらいました。竹でできた伝統楽器を身ぶり、手ぶり私に演奏方法を伝えてくれて、なかなか音が出なかった笛を鳴らすことが出来たときは周りの学生たちも一緒に喜んでくれました。日本人、フィリピン人の枠を超えた瞬間だったように感じました。



今回の研修で、フィリピンでの体験ばかりに目が行きそうですが、実際は団員や先生、担当者の方々とのように接し仲良くしていくのが、私にとっては重大な悩みでした。けれど、無事に帰国し振り返ってみると素晴らしい仲間に出会えて、成長できたように感じています。このような貴重な機会を手えてくれた周りの方々への感謝の気持ちを携え、毎日を過ごしたいと思います。

# フィリピン人の人柄の良さ

山根 まどか

私はこの夏フィリピンに行って感じたことは、外から見るのと内から見るのでは、かなり差が出てしまうということです。私はフィリピンに実際行って見るまで、フィリピンは怖い場所だと思っていました。理由は治安があまり良くないことや、スモークー マウンテンというスラム街があると聞いて、あまり良い印象を受けなかったからです。でも実際に行ってみると今は、とても良い印象を持っています。



それは、人柄の良さに触れることができました。それは、人柄の良さに触れることができました。

私は実際に行ってみて、スモークー マウンテンを車窓から見たりして治安の悪さもそれなりに感じ取りました。でも、2日目に行ったアラウロ高校や、3日目に出会った苦小牧に来たことのある人達と交流した時に、フィリピン人の人柄の良さが伝わってきました。

2日目のアラウロ高校に行った時に交流する時間があったのですが、英語が苦手な私にも、伝えることも聞き取ることもできない私にも、たくさん話しかけてくれて、必死に文法の合っていない私の英語を聞き取って一緒に写真を撮ったりしてとても楽しい時間を過ごさせてもらいました。日本の高校に外国の人が来てもなかなかあそこまでフレンドリーに楽しみながら対応してあげるのはいくら難しいのではないかなと思います。それもあって本当に温かい人達なのだなぁと思いました。



3日目の苦小牧に来たことのある人達と一緒に行動した時に、ショッピングをペアの人達と一緒にする時間がありました。やはり私は英語が全然ダメなので、相手が何を言っているのかさっぱり分からないし、分かっていても答えることができませんでした。それなのに、単語しか言葉を発しない中で理解しようとしてくれました。おみやげなどで、手荷物がいっぱいになってとても重そうにしていたら持ってくれました。大丈夫だと断わっても重そうだから持てるって言ってくれました。手荷物が増えるたびに持ってくれて、何だか申し訳なくなってしまうくらいとても優しくしてもらいました。しかも、私達と初めて会ったにも関わらずとても素敵な



プレゼントまでくれました。もらった時は本当にびっくりするとともに感動しました。

フィリピンは治安が悪かったりなど、まだ課題の多い国だと思います。しかし、外から見るのではなく内に入って感じることでできる人柄の良さはフィリピンのとても素敵な所だと思います。私はこの報告書を見た人が少しでもフィリピンは良い所だと感じてほしいです。



# フィリピンと日本の生活

大菅 菜々子

私はフィリピンを訪れて、沢山の事について学びました。食べ物や乗り物、特有の言語等々……。そんな中でも私は、バスの車窓から目にしたフィリピンの人々の生活している様子に、思わず息をのみました。一つは、住居。空港を出ると、ネオンサインの光る街並みが美しく、ある程度道路も整備されていました。しかしその裏側には、粗末な木の板に、トタンを打ちつけただけのバラックの様な家が、高層ビルや建物の横に並ぶように建っていました。日本でいえば、何十年も前の戦後の生活の様なイメージです。雑に束ねられた電線もボロボロの布が屋根から垂れ下がった民家も、日本で生まれて育った私にすれば、驚愕の光景でした。フィリピンというと、南国特有のヤシの木と、みずみずしく甘いフルーツなどが想像できますが、そんなリゾート地も裏を返せば、すさまじい、あるまじき光景が次々と目に飛びこんでくるのです。



二つ目は、人々。早朝から深夜まで若者が歩いている賑やかなのですが、道端には老若男女問わず多くの人々が手を差し出してました。お金を欲しがるのです。私が最も辛かったのは、民族舞踊ショーを觀賞して、バスに乗ろうとした時です。八時はもうとくに過ぎていたのですが、なんと男の子が一人箱を持って立っていたのです。腕は折れそうな程に細く、目だけがギョロッと大きく見えました。その男の子は恐らく七、八歳くらいだと思います。私には小学一年生の弟がいるのですが、その男の子を見た途端、弟と重ねてしまい、心が痛くなりました。その男の子の服は、襟や裾がのびていて、うす汚れていました。雨が降、ていてもおかまいなしに、裸足でそこにたたぼつんと立、ていました。私はお金をあげたくりましたが、渡せばキリがなくなるくらいねだられ続けるのを知っていたので、「ごめんね。本当にごめんね。」と心の中で何度も繰り返しながら、バスに乗りこみました。窓からずっと男の子を見てみると、その子はじっと私達のことを見ながら呆然とその場に立ちつくしてました。きっとその男の子も、すごく過酷な状況下での生活を余儀なくされているのだなと、思い返す度に胸が苦しくなります。



三つ目は、ゴミ。四日目に私達は「スモキーマウンテン」と呼ばれる、ゴミであふれる場所へ行きました。事前研修で、バスラというドキュメンタリー映画を見て予め多少はその様子を知、てはいましたが、やはり実際に見てみると、幾つものゴミの山があちこちにあ、て、フィリピンの地域格差をイヤという程に感じました。小さな湖にもゴミが浮かんでおり、驚きました。またそこにも民家が軒を連ね、ていて、人も住んでいました。少しの風で倒壊してもおかしくないというくらいに質素な家でした。そのスモキーマウンテンにはゴミを捨て、わすかなお金にかえて暮らす人が大勢いる為、トラックがゴミを選び積んだ山も、道路に雪崩ができる程にまで漁られていました。もう日本では考えられない光景の連続で、何も言えませんでした。私達日本人にとってみればガラクタでも、フィリピンに住む貧困層の人々にとってみれば生活していく上で重要なものであることに気づき、私はどれだけ幸せな生活を送、ているのかを痛切に感じました。



私は今回のフィリピン派遣団の一員としてこの事業に参加し、物事を見る目が広くなった気がしました。自分とは比にならない程大変な貧しさの中での生活を強いられている人が数多くいるこの現実に、私達若者がどう向き合うかによって、未来もより良くなっていく様に感じました。今を見つめ直す、とても良いきっかけとなったと思います。

# フィリピンの貧困格差

櫻井 ゆい子

私達は主に、フィリピンの首都マニラに訪問しました。高層ビルやホテルがたくさん建ち、豪華な住宅がたく見られる場所でした。巨大なショッピングモールもあり、物も充実していて、にぎやかで、日本の東京のような感じがしました。



しかし、生活水準が高く、収入の多い豊かな暮らしをしている人は少数でした。

それは、5日目実際にスラム街の「スモークマウンテン」という、ゴミ集積場に車窓見学しに行った時に分かりました。

そこでは、土管や路上で寝ている人、裸足でバスケットボールをして遊んでいる子や、破れてボロボロになった服を着て歩いている人など家がないホームレスの方がたくさん生活していました。

また、私がバスを乗り降りする時には小さな男の子がお金を欲しがるようにして手を差し伸べてきたり、売り物になりそうなものを持ってきて、私に売ろうとしていました。学校に通えない事や毎日十分な食事を取れない事も多く病気になる

時に診察を受けたり薬を買ったりする余裕がない人がいると聞いたこともありました。



このように、多くの方は職を失い、ゴミを捨ててわずかな収入で食べて生きている人がいるのだということが分かりました。

それを少しでも改善できるよう、「JICA」という日本の協力で、ホームレスの方や貧困の方を支えたり、助けたりしている事もある



のだそうです。私には、毎日3食ご飯が食べられて、学校に通うことができ、家族や友達に囲まれ

た、不自由ない生活をしてきました。また、日本は目立つ貧困格差が少ないので、今まで日本人としての考え方でしか生活してきていなかった自分とは大きく違い、驚きました。そして、そのような格差ができてしまうのはなぜなのだろうかという疑問も浮かびました。

そして、私にとってはあたりまえの生活が、貧しい生活をしている人にとっては特別で恵まれていることなのだと、今回のフィリピン派遣を通して学ぶことができました。

もっと今の自分の生活を大事にしようと思いました。



# 研究報告

## Aグループ

相原秀紀・大菅菜々子  
奥田琳花・櫻井ゆい子・立石歩佳

### 発表テーマ

## マニラの果てまでイッテQ!



# フィリピンの問題

## 1 フィリピンの今は 戦後の日本

### フィリピンの今

- 借金をして、新幹線やダムの建設をする。
- さとうきびの輸出で、海が汚れる。

↓  
公害問題の恐れがある。

- ゴミは分別せず、埋め立て

### 日本の戦後

- 借金している状態から、東海道新幹線をつくった。
- 鉱業所のカドミウムの廃水  
↓  
イタイイタイ病が公害病に認定。

- 人口の集中した都市で、ゴミ問題。

## 2 スモークマウンテン

- ゴミが散乱、土にかえることのできない製品が長い間残る。
- 都市部との地域格差が大きく、高層ビルや建物が何もない。
- ゴミ山から金品や少し値打ちのある物を拾い、お金に換金して生活する人がたくさん。老若男女を問わずいる。学校にも通えずにいる子供も。

※スモークマウンテンの名前の由来は、自然発火をしたゴミによって、煙が発生するため。

### ～取り分け式の食事～

フィリピンの食事では、テーブルを、みんなで囲み、大きな皿に盛りだくさん料理を自分でよそって食べる。日本は一人ずつ茶碗にお米が盛られている。これは日本とフィリピンの大きな違い！



# フィリピンの食事

### ～食べ方～

主にフォーを左手、スプーンを右手に料理を食べる。けれど、田舎では手で食べることが多いのだそう。

### おまけ

#### 本場の南国フルーツ

モンキーバナナ → 木の枝にたくさんついていた。  
マンゴー → 甘くてジューシー。値段がとても安い。  
パイナップル → 水々しくておいしかった。

### ～伝統的な料理～

主にタイ米を主食とする。肉は高いので米でいっぱいにしてあるのだそう。また、おかずは比較的肉が多いのだが、味付けは、濃いもの、薄いものの差が激しかった。日本ではありえない、「Balut」というひよこにかりかけの卵も？  
ジュースなどは、フルーツのたくさんの味がある。



# フィピン人の人柄

### ～現地へ行き感じたフィピン人の人柄～

フィピンでは、子供・女性・お年寄りを大切にしています。私達は3日目に舌小牧でホームステイをしたことのあるフィリピンの若者と交流しました。

### 妊婦さんには...?

みんながたすけてくれるじ  
お店で赤ちゃんが泣いてたら...  
→ お客さんが全力であやしてくれるじ



### 感じた場面

ショッピングモールに行った時にヒッとも重い荷物を持ってくれたり、トイレを気にしてくれたたりした。また、今思えば会ってばかりの時には、パパの人が私達に声をかけてくれた。それから、フィピンでは日本とちがいで、道路を横断することぶ多くが車の時には、車道を歩かなくてくれたこともあった。

### フィピンで福祉施設が少ない理由

日本では、お年寄りを施設にあずけて、すべてをサポートしてもらう。けど、フィピンはすべてが家族がやる。だから、施設も少なくなる。



# 研究報告

## Bグループ

井戸綾星・岡崎琳太郎  
鈴木希歩・本田友莉佳・山根まどか

### 発表テーマ

## ココナツの思い出

～フィリピン体験記～



### アラウロHigh School

制服 全校生徒 4800人 学校制度

人数が多いため、午前と午後の2部制になっています。

合唱 声量・周りとのバランスが抜群で、歌が大好きな気持ちが伝わってきました。

校則 学校へのスマホの持ち込みや、アイスを食べながらの登校が許可されています。

ダンス 赤い輪を土台にして、上に踊ります。

フィリピンの授業のようす 音楽の授業を見学・体験

学生たちは皆積極的に手を挙げて、授業に参加していました。

歌に伴奏はなく、楽器を演奏しながら歌っていました。

楽器を実際に体験

### フィリピンの食文化

#### 食事の基本

メリエンダと言われる間食が1日2回あります。

#### 主要な料理

フィリピンの主食はインディカ米という白米です。日本よりパウパサ?

おかず 肉 肉 お肉料理がたくさんあります。

フィリピンの料理は、日本と違い、取り分け式になっています。大皿に、たくさん入っていて、みんなで取り分けて食べます。

#### 独特な食べ物

フィリピンには独特な食べ物がたくさん!

バロット 茹で卵の中に、アイシロウなアールが入っています。

ハロハロ フィリピンのデザートです。日本のかき氷のようなものです。

#### 伝統的なおどり

これは、バンブーダンスと言います。竹を使った伝統的な踊りです。

夕食の時に実際におどりを見ました。

実際に体験できて楽しかったです。

### フィリピンの環境

#### スモーク・マウンテン 近辺の人々

スモーク・マウンテン

スモーク・マウンテンとは、ゴミの投棄場で、貧民が住み着き、ゴミをひろい生活をしている。最終処分場としてある。

周りにはお店が並び、色々な物を売っていました。教会も近くにあります!

川の上に竹で作った家に住んでいました。布で、かべがみを作り、雨や寒さの防止しています。

#### 電気

フィリピンの電線は、からまっていて、すぐ切れてしまいます。

フィリピンは、よく停電する。それは...電線から電気をぬすむ人がいる!

#### ジプニーについて

フィリピン全土でみられる乗り合いタクシーのことです。

ジプニーは1台1台を、人の手で手作りしていました。

車内の客室には、左右にベンチシートがあります。

#### ハーハ町の様子!

整備の人達が、いない...!!

道がガタガタで、事故が多発!!

朝とは違い人が多く、すごい盛り上がりがありました。

# 旅の思い出



結団式

出発式



事前研修



1 日

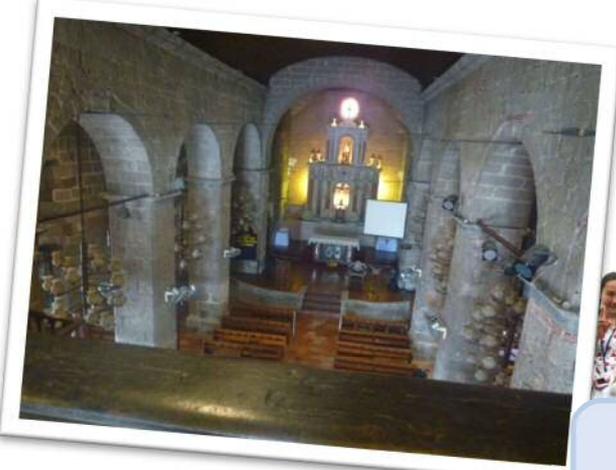


2 日





3日目



4日目





# 5日目



# 報告会



平成28年度苫小牧市こども国際交流事業  
中学生フィリピン派遣団報告書

平成28年12月発行

総合政策部 政策推進室 市民自治推進課

〒053-8722 苫小牧市旭町4丁目5番6号

TEL 0144-32-6157 (直通)

<http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/siminjiti/>